

平戸市公式LINEを活用した「ごみ分別検索機能」

平戸市では、ごみ出しの利便性向上と分別の徹底を図るため、平戸市公式LINEを活用した「ごみ分別検索機能」を配信しています。ごみの種類が分からない場合、スマートフォンで手軽に分別方法を確認することができます。

利用手順

- ①平戸市公式LINEのトーク画面を開きます。
- ②リッチメニュー(画面下部)の「ごみ」を選択します。
- ③品目名(例えば扇風機など)を入力し、送信します。
- ④送信された品目に対し、自動応答で「もえるごみ」「危険物」といった分別区分や、排出時の注意点が返信されます。

冊子の「ごみ出し便利帳」を確認する手間の軽減につながりますので、ぜひ日常生活の中で活用ください。
※検索しても分別区分が判明しない場合は、市民課生活環境班(①番窓口)までお問い合わせください。
※平戸市公式LINEは左の二次元コードからご確認ください。



平戸市公式LINEはこちら▼

問 市民課生活環境班 ☎22-9121

平戸観光応援アンバサダー

問 (一社)平戸観光協会 ☎23-8600

平戸観光応援アンバサダーとは、平戸市の観光振興やイメージアップを目的として、平戸市内外へ魅力を発信してもらうために、一般社団法人平戸観光協会の森幸雄会長から委嘱された人です。現在、2人が平戸観光応援アンバサダーとして活動しています。



むらやま ひとし
村山 仁志 さん(57)

【略歴】

平成4年にNBC長崎放送アナウンサーとして採用され、令和8年3月にNBC長崎放送を退社。同年4月からサムソンホテル代表取締役役に就任。

メッセージ

このたび、思いがけず平戸観光応援アンバサダーを拝命し、大変光栄です。平戸市に関わるようになったきっかけは2つあり、1つは、私が志々伎町に生まれ、子どものころから親しみを感じてきたふるさとであったこと。もう1つは、親戚であるサムソンホテルの先代社長から跡を継いでほしいと頼まれ、何度も平戸市を訪れる中で、平戸の魅力に触れ、「自分も力になれば」と思うようになったことです。ホテル経営は私にとって大切な役割ですが、それと同じくらい、平戸というまちが、たくさんの観光客であふれ、活気づくための役に立ちたいと思っています。これまで私は、アナウンサーや小説、脚本など、さまざまな形で言葉に向き合ってきました。その経験を活かし、平戸市が持つ高いポテンシャルを、たくさんの人に知っていただけるよう、アンバサダーとして発信していきます。まちの魅力を丁寧に伝え、人と地域をつなぎ、訪れた人が「また来たい」と思えるようなきっかけづくりに、少しでも貢献できれば幸いです。

地域おこし協力隊活動報告 vol.18

まちのにぎわいづくりと交流創出のお手伝い

かわかみ りん
川上 凜 隊員

人が行き交い、にぎわいのあるまちづくり

地域コミュニティマネージャーとして、多拠点ワークやノマドワークの体験受け入れにも携わり、4月にはノマドワーカー受け入れ強化に向けた協議の場にお邪魔して、観光関係や受け入れ施設の皆さんと意見交換をしました。

平戸市は古くからの海外交流の歴史もあり、外国のビジネスマンにもノマドワークの拠点として興味を持たれているようです。今後も平戸市の魅力を発信し、たくさんの方が行き交う、にぎわいのあるまちづくりに力を注いでいきます。

新たなアルベルゴ・ディフーズ施設が生み出す交流拠点

6月に1周年を迎えた「アルベルゴ・ディフーズタウン」。新たに2施設が加わり、そのうちの1つ、小さな中庭を備えた「陣屋 碧」では、マルシェや音楽イベント

の開催も視野に入れているようで、私もこのスペースの活用案を模索し、地域の皆さんの交流拠点となるよう、バックアップしたいと考えています。



ノマドワーカー受け入れ強化に向けた協議



今年度新たにオープンした施設「陣屋 碧」

平戸市ホームページに活動報告を随時掲載します。ぜひご覧ください。▶



問 企画課移住・定住政策班 ☎22-9105

五毒払いと薬草文化

旧暦の5月(今年は6月15日〜7月13日ごろ)は、暑くて湿度が多くなる季節です。この時期は「五毒」と呼ばれるサソリ、ヘビ、ムカデ、ヒキガエル、ヤモリが増え、昔は病気が広がりやすいとされてきました。

端午節(旧暦5月5日)もこの時期に行われ、ちまきを食べたり、ドラゴンボートレースが行われる習慣がありますが、元々は病気や災いを避けるために生まれた行事です。

端午節には、家の入口にヨモギやシヨウブを飾る習慣があり、ヨモギは虫よけや湿気対策に、シヨウブは邪気を払う植物として使われてきました。

また、香囊(こうのう)と呼ばれる香り袋を身につける習慣もあり、袋の中には、ヨモギやビヤクシ、カッコウ、クスノキ、レモングラス、チョウジなどの薬草が入っています。これらの薬草は香りを楽しむだけでなく、虫よけや体調を整える目的もありました。

私が出たところ、祖母は毎年手作りの香囊を作ってくれました。その独特な薬草の香りは、夏になると思い出です大切な記憶です。



▲ヨモギやビヤクシ、カッコウ、クスノキが入った香り袋(香囊)



国際交流員
張 莹
(チョウ・ゲイ)
(中国出身)

問 文化交流課交流推進班 ☎22-9143